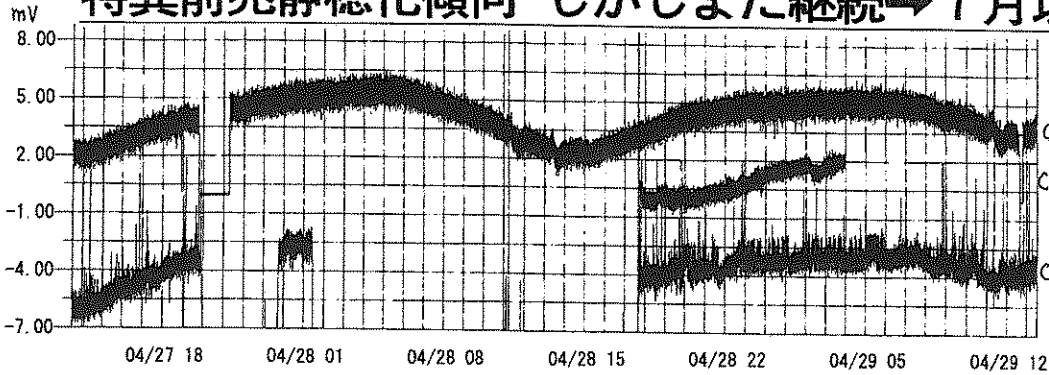


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報

特異前兆静穏化傾向 しかしまだ継続→7月以降の可能性



2014年4月27日13:30～4月29日13:30までの48時間のNo.1778前兆のうち3観測装置の基線

No.1778関連で第7ステージ前兆は、CH16, 17, 20, 21, 23の5観測装置。

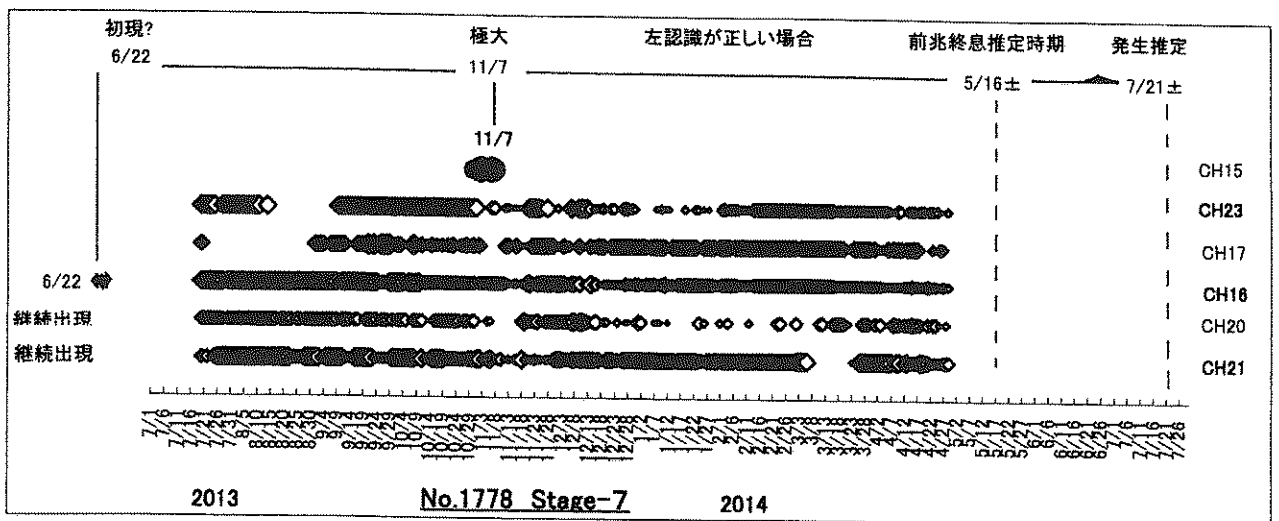
左波形は、4/27 13:30～4/29 13:30期間のCH17, 23, 20の様子。CH17は殆ど正常、CH23は断続的だが昨日夕刻以降正常。CH23は断続的に正常基線となり、顕著な特異状態継続は脱している。

No.1778前兆=2008年7月初現で、前兆群が段階的に変化しながら継続し、間もなく6年前兆継続となる震源が浅い日本列島地殻地震推定の地震前兆です。

昨年2013年7月頃より第7ステージの前兆と認識しており、極大は2013年11月07日のひとつと認識しています。CH16, 17, 23等の特異が継続的に出現した、2013年07月05日±を、この第7ステージ前兆群の初現の可能性と考え、仮に2013.7/5±が初現、2013.11/7 極大の関係が正しい場合には、前兆静穏化、静穏期(Tpp) 突入は、2014.4/29±と計算されていました。

しかし、本日4/29午後現在、上波形のとおり、まだ前兆は継続中で、波形を掲載していないCH16, CH21も特異状態が出現しています。多少の誤差も考えられますが、本日の状態を見ますと、一両日中に前兆が静穏化することは考えにくく、第7ステージの2013.7/5±は初現ではない可能性が高いと判断されます。以前に記しましたが、この場合は、実際の前兆静穏化を観測し

て、極大との関係から、 $T_{map}:T_{pp}=3.9:1$ 経験則を使用して、第7ステージの示す時期(現状第7ステージが最終ステージである可能性が高い認識)を求めるしかありません。継続前兆の全体は静穏化傾向ですので、あまり遠くない時期に静穏化の可能性も十分考えられます。下図にはCH16が断続的にでも特異状態が出現した、2013年06月22日を初現の可能性として、計算しなおした関係を記入してあります。この認識が仮に正しい場合には、 $T_{map}=256日±$, $T_{pp}=65日±$ が計算され、前兆静穏化時期推定=5/16±、第7ステージが示す時期=7/21±が計算されます。これが次に考え易い、早い場合の推定時期となりますが、実際の前兆静穏化を観測して、修正したいと考えます。現段階で言えることは、近日中に全前兆が静穏化することは考えにくいことから、少なくとも7月中旬以前に発生の可能性は否定できる(安全)と云うことです。前述の認識による05月中旬頃に前兆終息となるか、実際の静穏化を待ちたいと考えます。



※上前兆出現状況図上部に書き込んだ関係(初現～極大～静穏化～発生)は、仮に2013年06月22日が初現であった場合の推定計算で、早い場合の推定です。5/16±以降前兆継続の場合は実際の終息を観測して計算します。